

特 集

東日本大震災救護活動に参加

伊藤 隆善¹

I 災害発生

平成 23 年 3 月 11 日（金）午後 2 時 46 分にマグニチュード 9.0 の巨大地震が東北地方を中心とする東日本を襲った。今回の地震と津波による犠牲者は、9 月 13 日現在で死者 15,785 人、行方不明者 4,060 人である。この地震により東北地方の多くの病院や診療所が被害を受けるとともに、県及び市町村機能も麻痺するなど甚大な被害を受けた。発災直後、国内の他地方から一斉に救援活動が展開され、また、諸外国からも続々と救援チームが日本に到着した。さらに、被災者救援のための義援金が寄せられている。

II 初動活動

日本赤十字社愛知県支部では、3 月 11 日（金）午後 6 時に支部職員 2 人が本学に配備されている d E R U（国内型緊急対応ユニット）により被災地へ向け出動した。

さらに、名古屋第一・第二赤十字病院から救護班を被災地へ派遣した。

III 救護員として出動

3 月 16 日に日本赤十字社愛知県支部からの要請により 3 月 17 日から 19 日まで石巻赤十字病院を拠点に巡回診療に従事する第 4 班の救護員搬送に支部職員と共に当たった。17 日は、支部に集合し、マイクロバスにて名古屋第二赤十字病院（8 人）、名古屋第一赤十字病院（6 人）の各救護班を病院に迎えに行った。各病院では、被災地で不足すると予測される燃料、診療材料、カップ

麺、毛布、寝袋などをマイクロバスに積載した。移動は、東名高速、首都高速、東北自動車道の陸路であった。17 日の夜は、日本赤十字社栃木県支部（宇都宮市）で仮眠をとった。

18 日は早朝 5 時 30 分に栃木県支部を出発し、近くのコンビニで救護員全員の朝と昼の食糧となるおにぎり、サンドイッチ及びペットボトルを購入した。東北自動車道は、地震被害による段差がところどころにあったが、通行に支障はなかった。この日の東北自動車道は、日赤、自衛隊、消防及び警察等の災害緊急車両専用であったため渋滞に巻き込まれることはなかった。しかし、被災地に近づくに従い、パーキング・エリアの給油所では、給油量の制限や燃料の品切れが見受けられた。

石巻赤十字病院には、午後 0 時 20 分に到着した。直ちにマイクロバスから関係資材を同病院の災害対策本部に搬入するとともに、各県から派遣された日赤救護班と共同の災害対策本部室を使って愛知県から派遣された救護班第 3 班との引継が開始された。この本部室は全国から派遣された日赤救護班が集結、引継、連絡調整会議が行われるため足の踏み場もない状況であった。救護班間の引継ぎの後、救護班第 4 班は、直ちに救急車 2 台に乗り巡回診療を開始した。

石巻赤十字病院の周囲の病院や診療所は、この地震、津波の被災により機能していないため、発災後に傷病者が同病院に殺到した。この時点でライフラインは稼働していた。同病院の正面玄関には、各県支部から派遣された日赤救護班のエアーテントが林立し、この中で診療に当たっていた。また、同病院の敷地内にヘリポートがあり緊急患者が空輸されていた。さらに、院内のロビーや待合室は臨時のベッドが配置されるなど傷病者が収容されていた。

石巻赤十字病院での救護班第 3 班と第 4 班間の引継、

¹ 日本赤十字豊田看護大学事務局次長兼総務課長

第 4 班による巡回診療出発後の午後 2 時 50 分に救護班第 3 班 13 人を名古屋第一・第二赤十字病院へ帰還させるため同病院を出発し、往路と同様の陸路により 19 日午前 8 時 40 分に名古屋第二赤十字病院に到着し、その後、名古屋第一赤十字病院へ送った。なお、18 日夜は、マイクロバスの車中で仮眠をとった。

Ⅳ 日本赤十字豊田看護大学の東日本大震災災害救護活動など状況

表 1 に、本学の東日本大震災における災害救護活動の状況の一覧を示した。

- 1 救護班派遣として、先に紹介した活動を含めて 2 人を派遣した。
- 2 日赤本社からの要請により海外メディア対応のために、教員 1 人を派遣した。
- 3 学園本部からの要請により、石巻赤十字病院支援のため教員 2 人（助産師、看護師として活動）を 4 月 9 日から 14 日まで派遣した。

- 4 学園本部からの要請により、石巻赤十字看護専門学校の図書整理のため司書 1 人を 9 月 15 日から 17 日まで派遣した。また、日赤本社からの要請により同校の実習支援のため 1 月 5 日から 27 日まで派遣した。
- 5 学内の災害救援ボランティアサークル学生 24 人と教職員 3 人が、8 月 31 日から 9 月 6 日まで岩手県及び宮城県の仮設住宅集会所で子供の遊び支援等を実施した。
- 6 陸前高田市における日本赤十字 6 大学看護ケアプロジェクトに参加し、教職員 6 人を派遣した。
- 7 後方支援活動として以下の活動を行った。
 - 1) 本学に設置されている災害倉庫から被災者見舞い品として毛布 1,000 枚と緊急セット 252 セットを搬出した。
 - 2) 義援金の受付と募金活動
 - ①教職員へ協力を依頼した
 - ②災害救援ボランティアサークル学生によって街頭募金を実施された。

表 1 東日本大震災災害救護活動等状況一覧表

1 救護班派遣（派遣先：石巻赤十字病院）

派遣期間	派遣者職氏名	活動内容
3/17 ~ 3/19	総務課長 伊藤隆善	救護班輸送
3/17 ~ 3/21	経理係長 中島伸一	巡回診療

2 日本赤十字社・企画広報室補佐（海外メディア対応）

派遣期間	派遣者職氏名	活動内容
3/14 ~ 4/1	准教授 河合利修	海外メディア対応

3 石巻赤十字病院支援

派遣期間	派遣者職氏名	活動内容
4/9 ~ 4/14	助手 神谷智子	病棟業務支援
4/9 ~ 4/14	助手 安藤仁恵	妊産婦周産期ケア

4 石巻赤十字看護専門学校支援

派遣期間	派遣者職氏名	活動内容
9/15 ~ 9/17	図書館一係長 中尾明子	図書の分類・装備、図書の書架への配架
1/5 ~ 1/27	助手 増尾美帆	看護専門学校実習支援

5 災害救援ボランティアサークル学生による被災地ボランティア活動（学校法人日本赤十字学園研究基金運用益の一部活用）

派遣期間	派遣者職氏名	活動内容
8/31 ~ 9/6	災害救護ボランティアサークル学生 24 人 学務部長 奥村潤子 准教授 中島佳緒里 学生・キャリア支援係長 大渡佳世	地域：岩手県 大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市・住田町 宮城県 七ヶ浜町 内容：岩手県 岩手県立大学ボランティアセンター主催 いわて ginga-net プロジェクトに参加 宮城県 NPO 法人名古屋レスキューズストックヤード主催活動に参加

6 陸前高田市日本赤十字 6 大学看護ケアプロジェクト（赤十字と介護に関する研究助成金対象事業）

派遣期間	派遣者職氏名	活動内容
6/28 ~ 6/29	学長 渡邊英夫 総務係長 平野二郎	6 大学学長合同ミーティング
11/8 ~ 11/11	学部長 野口眞弓 教授 大西文子 助手 増尾美帆	陸前高田市仮設住宅集会場において、住民を対象に個別健康相談、健康ミニ講座及び運動等の体験プログラム並びに語り場を提供。
11/13 ~ 11/17	学務部長 奥村潤子 教授 杉浦美佐子 学生・キャリア支援係長 大渡佳世	陸前高田市仮設住宅集会場において、住民を対象に個別健康相談、健康ミニ講座及び運動等の体験プログラム並びに語り場を提供。

7 義援金募集（9 月 30 日現在）

本学教職員及び災害救援ボランティア学生の街頭募金により 1,261,706 円を日本赤十字社愛知県支部を通じて被災地へ送金。

（参考）

日本赤十字社法（昭和 27 年 8 月 14 日 法律第 305 号）
第 27 条（業務）2 号

非常災害時又は伝染病流行時において、傷病その他の災やくを受けた者の救護を行うこと。

日本赤十字社定款（昭和 27 年 10 月 31 日 厚生省東社第 520 号認可）

第 47 条 2 号

地震、火災、風水害その他の非常災害時又は伝染病流行時において、傷病その他の災やくを受けた者の救護を行うこと。

1 常備救護班

①班員の構成

基準編成：医師 1 人、看護師長 1 人、看護師 2 人、主事 2 人 計 6 人

業務の必要に応じて薬剤師、助産師、放射線技師等が加わる。

②全国 495 班 5,336 人（平成 22 年 7 月 1 日現在）

③愛知県支部（日本赤十字社愛知県支部 平成 22 年度事業報告）

	救護班編成数	災害対策本部要員	救護班要員						血液供給要員	特殊救護要員	合計
			医師	看護師長	看護師	主事	助産師	薬剤師			
第一病院	常備10個	12 人	12 人	12 人	24 人	22 人	5 人	10 人	一人	26 人	123 人
第二病院	常備 9	10	13	9	25	19	2	6	—	17	101
センター	予備 2	11	2	3	6	6	—	5	11	12	56
支 部	—	29	—	—	—	—	—	—	—	—	29
合 計	21	62	27	24	55	47	7	21	11	55	309

3 d E R U (国内型緊急対応ユニット) (domestic emergency response unit)

大規模な自然災害等が発生した場合、このユニットで、1日100人位の傷病者を1週間治療可能な医薬品・機材等を収納したコンテナを3.5トン積のトラックに積載して被災現場へ出動

4 緊急セット内容品の主なもの () は数量

①タオル(4)、②ウェットティッシュ(1)、③ポケットティッシュ(4)、④軍手(4)、⑤ゴム手袋(1)、⑥コップ(4)、⑦物干しロープ(1)、⑧洗濯バサミ(10)、⑨救急絆創膏(15)、⑩マスク(4)、⑪歯ブラシ(4)、⑫携帯ラジオ(1)、⑬懐中電灯(1)、⑭鉛筆(1)、⑮メモ用紙(1)

5 過去の主な救護活動

- ①明治 21 年 磐梯山噴火災害 (災害救護の契機)
- ②大正 12 年 関東大震災
- ③昭和 34 年 伊勢湾台風
- ④昭和 60 年 群馬県御巢鷹山 日航機墜落事故
- ⑤平成 3 年 雲仙普賢岳噴火
- ⑥平成 5 年 北海道南西沖地震
- ⑦平成 7 年 阪神・淡路大震災
- ⑧平成 16 年 新潟県中越地震